

時事の話題

山田啓二京都府知事のマニフェストについて

「希望の京都」を築くための山田府政の総仕上げとなり、京都経済の活力を取り戻し、地域力を高め雇用を生み出し、福祉を充実するという好循環を築き上げなければならない。経済界としても、地域経済活性化への取り組みに協力していきたい。

「中小企業支援100億円投資プロジェクト」については、歓迎すべき施策である。若い企業や伸びる事業に投資を振り向けることが大変重要だ。その投資が一時的なバラ撒きにならないよう、最大限に活かせる制度設計をお願いしたい。

「京都産業育成機構」の創設については、本所が提唱している知恵産業など、新たな産業の発展や、中小企業への支援強化に寄与するものとして大いに期待している。現在、様々な機関が同じような産業支援をバラバラで行っており、支援を受ける側から見れば、その違いが非常にわかりにくい。

この産業育成機構が、オール京都で産業育成に取り組む一体化した組織となるよう、十分に枠組みを検討していただきたい。中小企業の顧客創造を通じて成長を実現するというイメージを共有できるものとなるよう期待する。

また、「東アジア 中小企業 市場開拓 支援センターの整備」については、本所としても計画段階から参画し、中国に拠点を置く京都企業も多いことから、協力して推進していきたい。

その他にも、随所に京都産業をパワーアップする施策が盛り込まれており、具体的な施策として組み込まれるよう、我々としても積極的に意見を申し上げ、協力していきたい。3期目となる4年間で必ずやり遂げていただくようお願いし、期待する。

京都商工会議所の動き

ビジネス支援チームの発足について

記者配布資料

ニュー京商ビジョンの柱の一つ「知恵産業の創造」は、今年度、自社の知恵や強みを活かして挑戦する事業者の取り組みを、個別に支援することを通して、“顧客創造”の実現を図る「発展ステージ」を迎えた。

知恵ビジネスの実現へ、ハンズオン支援にあたる「知恵ビジネス支援チーム」を発足させる。このチームは、本所の経営支援員と中小企業診断士などの外部専門家により編成し、個別の事業プランの経営支援にあたる。

当面は、知恵ビジネスプランコンテストで認定した6社の事業プランの実現に注力する。今後は、知恵ビジネスに取り組もうとする予備軍にも、支援活動の範囲を広げていきたい。支援内容は、事業プランや企業によって抱える課題が異なるので一概ではなく、枠に嵌めずに展開する予定だ。

なお、支援チームの個別支援活動を、効果的・戦略的に展開するため、学識者やコンサルタントによる戦略会議も設置する。5月に、第1回の戦略会議を開催し、支援チームの活動を本格展開していく予定だ。戦略会議が支援活動の参謀役、支援チームが実行部隊となり、1年間で知恵ビジネスの実現事例を生み出していきたい。

支援チームの活動と並行して、こうした事業者の後に続こうとする挑戦者を育成していく活動は、引き続き実施していく。とりわけ知恵ビジネスプランコンテストを継続開催し、有望な知恵ビジネスのシードを見

つけ出したい。それを支援チームによるハンズオン支援により、次々と知恵ビジネスを育成・発展させることができれば、知恵産業群として知恵産業の創造が実現できると考えている。

京都の未来を考える懇話会の開催について

記者配布資料

「京都の未来を考える懇話会」は、京都の様々な分野のトップが集まり、30年後、50年後といった長いタームで京都のありたい姿を語り合い、広く発信することによって、未来の京都のイメージを共有化していきたいという思いで、私が呼びかけ、準備を進めてきた。

その第1回目の懇談会を、4月26日(月)に、京都府知事、京都市長、京都府観光連盟・京都市観光協会の会長、京都大学総長、池坊次期家元、京都新聞の齊藤修社長をメンバーとして、開催する。今後、このメンバー以外にもテーマに応じて様々な分野の方を招き、年数回のペースで開催したい。

都市ビジョンを共有することで、企業は、新たなソーシャルニーズ創造のための人材育成や技術開発、事業創造の方向性が的確に見える。懇話会は京都経済の活性化にも大いに貢献できると考えている。

記者からの質問事項

「知恵ビジネス支援チーム」の目標は？

(立石会頭)

まずは6社の事業立ち上げに向けてハンズオン支援に取り組んでいきたい。

(理事・中小企業経営相談センター所長)

6社の中にはすでに商品開発を終え、市場投入を開始している事業者もある。売上や単年度黒字、先行投資など1年後の到達点・目標については現在協議を進めている。本所の中小企業経営相談センターでは、年間約80社に対して創業に至るまでの経営相談を行っている。例えば、そうした案件の中からも知恵ビジネスに取り組む企業を発掘し、顧客創造に向けた支援を行いたい。

「京都の未来を考える懇話会」での京商の立場は？懇話会にかける思いは？

産業の創出による雇用の創出、そして福祉の充実という好循環を築くための役割を担っていくというのが基本的な考え方であり、京商としては、会員の多くを占める中小企業が元気を取り戻すためのビジョンを策定していきたい。

今後の地域主権社会を見据えて地域がどんなビジョンを持つかが重要。新しいソーシャルニーズを探索し、それを実現できる技術や研究開発、事業の方向性を示すことで地元中小企業の創造につなげたい。また、新政権の掲げる内需経済都市としてのモデルを、京都で示していきたい。経済界、行政が一体となってビジョンをつくり上げていく必要性を訴えていく。

「知恵産業」とは？

知恵産業については、度々申し上げているが、京都の1200年の歴史の中で、豊富に蓄積されてきた人の生き方、暮らし方、街のあり方についての知恵を、「科学技術」や「匠の技」、「デザイン」などと融合させながら、知恵を付加価値の源泉にして新しいビジネスモデルを生み出し、点から線への広がりを産業群として確立させていく、というのが基本的な考え方である。地域の特性と強みを活かすというところに知恵産業の位置付けがある。コストではなく質・知恵で勝負する時代を迎えたという認識を持つことが重要。

民主党による高速道路の料金設定に関してどう考えているか。

実際には値上がりになるようにも聞いているが、今後、手直しをされていくのではないか。また、料金収入を高速道路建設に充当することから議論となっているが、個人的にはやむを得ないと考えている。

以 上

京商「知恵ビジネス支援チーム」の新設と戦略会議の設置

ミッション: 京都の特性や企業独自が持つ強みを生かし、新たな知恵による独創的な技術、商品、サービス、またはビジネスモデルに対し”顧客創造”を実現する事業プランの実現に向け、ハンズオン支援活動を行う。

重点活動: 知恵ビジネスプランコンテストの認定事業6社をはじめとする知恵ビジネス予備事業者を対象に事業の進捗度に応じた課題の解決支援にあたり、顧客創造を行う。

活動形態: 事業プランごとに、外部専門家と本所経営支援員が協働(チーム構成)して、支援活動を実施。支援活動の開始に当たっては、事業者と支援活動の方針・内容を相互に確認するとともに、KPI(重要業績評価指標)の達成に努める。

構成: 協働して支援活動にあたる外部専門家と本所経営支援員を「知恵ビジネス支援チーム」と位置づけ支援先ごとに編成する。

戦略会議: 「知恵ビジネス支援チーム」のアドバイザリーボードとして戦略会議を設置する。支援先の経営課題に応じた支援戦略の策定と進捗確認等を行う。

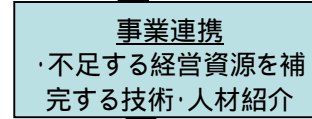
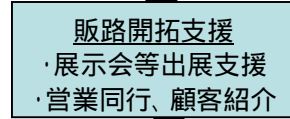
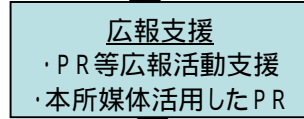
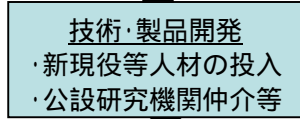
- | | |
|---------------------|---------------------|
| ・佐藤研司(龍谷大学・教授) | ・中森孝文(立命館大学・准教授) |
| ・村山裕三(同志社大学大学院・教授) | ・橋本豊嗣(中小機構・統括PM) |
| ・北口祐規子(中小機構・PM) | ・山崎忠夫(診断協会・京都支部長) |
| ・龍不可止(本所経営相談センター所長) | ・窪田裕幸(本所知恵ビジネス推進室長) |
- 一部調整中

外部専門家: 支援活動にあたる外部専門家は、中小企業診断士、弁護士、税理士、公認会計士、司法書士、ITコーディネーター、コンサルタント等の専門家(現在90名登録)から選任委託する。

発足式: 第1回戦略会議を5月に開催し、「知恵ビジネス支援チーム」の活動に入る。

知恵ビジネス企業の成長・発展

< 発展ステージ >



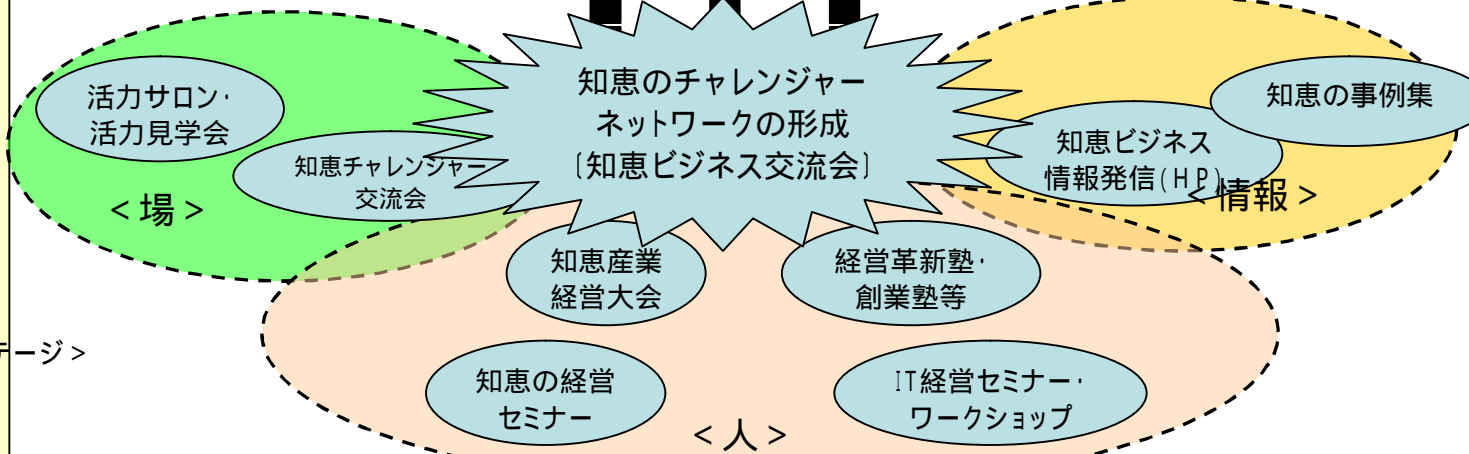
知恵ビジネス支援チームによるハンズオン支援活動

< 育成ステージ >

知恵ビジネスプランコンテスト
(具体的な事業プランの発掘・審査)

< 知恵ビジネス支援チーム >
・経営支援員 + 専門家による伴走型支援
・専門家コアメンバーによる戦略会議
・課題に応じた専門家人材の構築

< 啓発ステージ >



知恵ビジネス支援連絡会議
(知恵ビジネス創出に向けた支援機関の連絡会議 ~ 支援活動の情報共有と適切な支援策の誘導)

「京都の未来を考える懇話会」について

趣 旨

京都府においても、人口減少・高齢化は着実に進展しており、こうした時代に新しい京都の未来を力強く切り拓いていくためには、将来の「ありたい姿」、すなわち「ビジョン」を行政だけではなく、産業界、メディア、大学、NPO、住民などが共有することが大切であり、府域だけではなく周辺地域ともお互いの価値を共有していく視点も重要である。

また、ビジョンを共有することによって、人と人が出会うための場ができ、人と人が連携して地域の絆を再生することにもつながる。

こうした観点を踏まえ、京都の行政、産業、学術、文化芸術、メディアといった各界が一堂に会して、未来の京都の「ありたい姿」を語り合い、それを新聞紙上などで広く公開することにより、オール京都ですべての人々が一緒に目指していきたいと思える京都の未来像を熟成させていくことを目的に、『京都の未来を考える懇話会』を設置する。

「懇話会」の骨子

- ・構成メンバー 山田 啓二 京都府知事
- 門川 大作 京都市長
- 立石 義雄 京都商工会議所会頭・京都府商工会議所連合会会長
- 松本 紘 京都大学総長
- 柏原 康夫 京都府観光連盟会長・京都市観光協会会長
- 池坊 由紀 華道家元池坊次期家元
- 齊藤 修 京都新聞社代表取締役社長

有識者の招聘について

上記メンバーの他に、テーマや課題に基づいて有識者を招聘する。

- ・期 間 2010年4月～2012年3月(2年間程度)、2～3ヶ月に一回程度
- ・目 的 ・「30年後の京都のあるべき姿」の熟成
- ・取 組 ・懇話会の開催
 ・懇話会主催のシンポジウムの開催
 ・新聞紙面での広報活動

第1回「懇話会」について (冒頭のみ写真撮影可能)

日 時：平成22年4月26日(月) 8:15～9:15 (朝食会として開催)

場 所：ホテルグランヴィア京都 古今の間(5階)

議 題：・「趣意書」の作成について

・未来の人口推移から見る京都の課題について 他

本件ご連絡先 京都商工会議所 企画室 政策担当 TEL：075-212-6402